

令和8年度重点プロジェクト事業評価（令和7年度事業分）

No1 「区内経済の活性化」

産業経済部産業振興課

産業経済部企業経営支援課

1. 背景

足立区が直面している社会的・経済的課題についてご説明します。

1. 背景と必要性

足立区が直面している社会的・経済的課題についてご説明します。

事業を実施する背景・必要性

▶ 物価高騰による区民生活の圧迫：

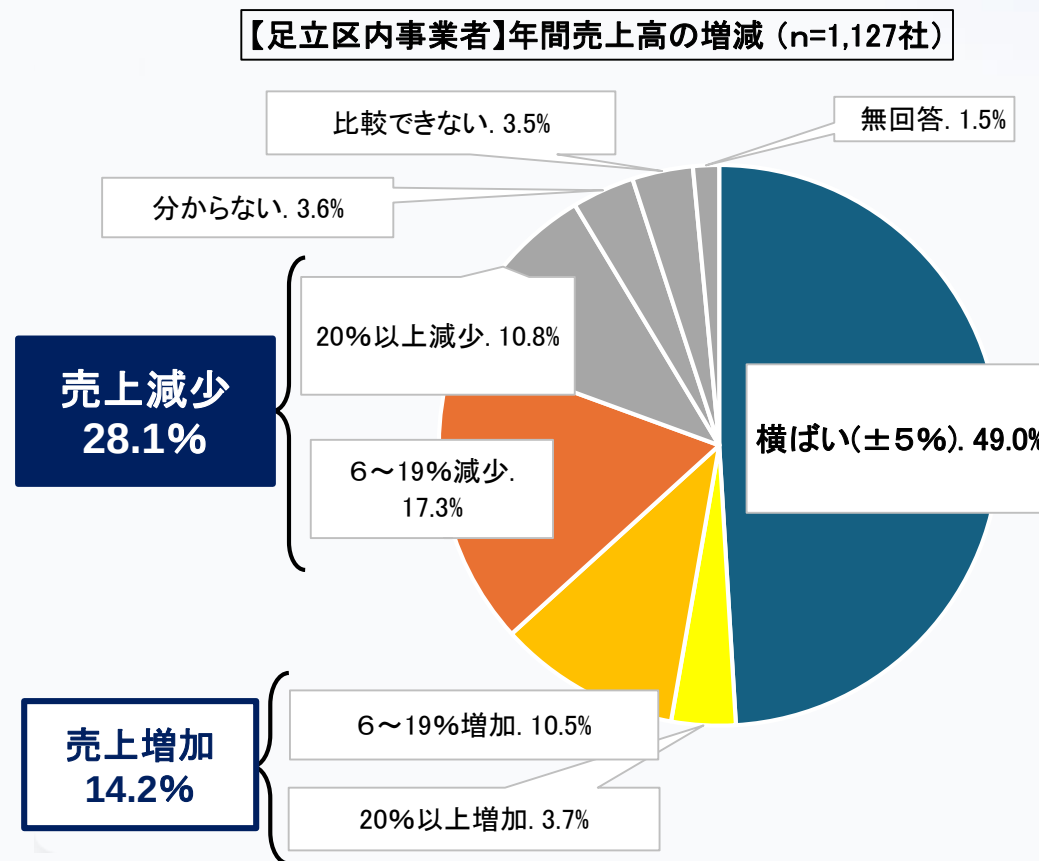
食料品や日用品、光熱費など生活に必要な支出が増加。物価上昇が所得の伸びを上回り、家計を圧迫し消費行動に深刻な影響を及ぼしている。（厚生労働省の2025年度の毎月勤労統計調査により、4年連続実質賃金マイナス）

▶ 区内事業者の経営環境悪化：

原材料や人件費の高騰が収益を圧迫し、約3割の事業者の売上利益が減少。人手不足により販路開拓に注力できず、中小企業小規模事業者が多い本区において、事業継続の危機が顕著となっている（令和7年7月産業実態調査）。

▶ 地域経済循環の維持：

経済の停滞は地域活力の低下だけでなく、雇用や区民生活にも直結。区民生活の下支えと地域消費の促進、事業者の経営支援を一体的に推進し、好循環を生み出す必要がある。（経済は、消費・雇用・所得のサイクルが重要）



令和7年7月産業実態調査より

全体像（3つの柱）



キャッシュレス キャンペーン事業

ポイント還元やプレミアム付き商品券により区民の消費を下支えし、地域店舗への集客と売上向上を図る。同時にキャッシュレス決済の普及を促進。



小規模事業者等 経営改善補助金

資材・燃料費等の高騰に直面する小規模事業者等を対象に、計画作成を通じた設備投資や店舗改修など、前向きな経営改善の取り組みを資金面で支援。



IT・IoT 導入補助金

事業者が自らの強みと弱みを踏まえた経営上の課題を見出すとともに、自社でIT・IoTを導入活用することで生産性の向上及び業務の効率化等の実現を支援。

2. 実施事業の概要と実績

3つの柱となる各事業の具体的な「課題」「目的」と、
「実績（成果）」について報告します。

実施事業① キャッシュレスキャンペーン事業

❗ 事業課題と目的

- ▶ **課題**：物価高騰の影響で区民生活の負担が増加する中、消費が冷え込み、区内店舗や**中小事業者の売上減少が深刻化**している。
- ▶ **目的**：キャッシュレス決済を通じた還元・商品券事業により、**区内での消費喚起と地域経済の活性化**を図る。
- ▶ **副次的効果**：事業者側のレジ業務等の効率化や、時代のニーズに合った**非接触決済への対応を促進**する。

🏪 令和8年度の事業概要

- ▶ **プレミアム率等**：最大40,000円の購入で52,000円分利用可能な30%のプレミアム付デジタル商品券
- ▶ **発行口数**：区内6,000店舗以上
- ▶ **参加要件**：足立区民のみ・先着
- ▶ **対象店舗**：区内のPayPay加盟店舗のうち、大手事業者を除く、足立区が指定した店舗で約6500店舗

キャッシュレスキャンペーンの実績と課題

直接成果指標－2

29.2億円 (70.2億)

地域への経済波及効果

直接成果指標－1

約6,300店 (7,323店)

キャンペーン参加店舗数

活動指標－1

23回 (17回)

事業の広報実績

区内消費の促進に確かな手応えも、
販売口数が少ないと批判も...

約29.2億円の決済実績を生み出し、区内消費の喚起に確かな成果を上げた一方、販売口数は目標に届かず、経済効果は当初想定を下回った。

広報を23回実施し約6,500店舗がキャンペーン参加したものの、販売方法や事前購入方式へのハードルなどが利用拡大の課題として残った。

※ () 内は前年度の実績

実施事業② 小規模事業者等経営改善補助金

❗ 事業課題と目的

- ▶ **課題**：エネルギー価格や原材料費の高騰、深刻な人手不足により、区内小規模事業者の利益率が圧迫され、事業継続の危機に直面。
- ▶ **目的**：新たな販路開拓、省エネ機器の導入、新商品開発など、前向きな経営改善に取り組む事業者に対し経費の一部を補助。
- ▶ **目指す姿**：一時的な補填ではなく、事業者の経営基盤そのものを強化し、持続的な事業成長を支援する。

📊 令和8年度の事業概要

- ▶ **補助対象**：経営改善に取り組む小規模事業者等（従業員数30人（商業またはサービス業は10人）以下）で区内で継続して1年以上事業を営む者

判定基準	補助上限額	補助率
区内事業者に支払う割合が補助対象経費の1/2以上	250万円	2／3
区内事業者に支払う割合が補助対象経費の1/2未満	150万円	1／2

- ▶ **活用事例**：製造業の溶接機や電動工具、サービス業の冷凍・冷蔵庫や理容椅子、小売業の店舗改修（ドア・キッチン・トイレ）など

小規模事業者経営改善補助金の実績及び課題

直接成果指標－3

322者

補助金交付事業者数（総額約4.2億円）

70.0%

区内調達率（前年度34%から倍増）

地域経済循環を大きく前進

広範な資金支援により、経営改善に意欲的な322者に対し総額約4.2億円を交付。さらに区内事業者に50%以上発注する事業者の補助金額上限、補助率を引き上げたことにより、区内調達率が70%と飛躍的に向上。地産地消の経済効果を力強く牽引した。

利用促進と申請手続きの課題

一方で、前年度の395件より利用件数が減少（前年度比△73件）していることに加え、申請手続きが煩雑で来庁回数が多く、日々の業務に追われる一人親方などの小規模事業者が申請を躊躇しているとの声も寄せられている。

実施事業③ IT・IoT導入補助金

❗ 事業課題と目的

- ▶ 課題：顧客情報や売上の管理等の**事務作業を紙やエクセルで処理**するため作業時間がかかり、営業にあてる時間が少なくなってしまう。
- ▶ 目的：生産性向上や業務効率化に資する**IT・IoT導入により、売上や営業利益の増加を図る。**
- ▶ 目指す姿：事業者が自らの課題を認識し、**IT・IoT導入し、生産性向上・業務効率化が図られ、売上や営業利益の増加により区内経済の活性化している。**

📊 令和8年度の事業概要

- ▶ 補助金の周知：チラシ送付、公社ニューストキメキ、SNS等を活用した事業周知を実施した。
- ▶ 補助率：補助対象経費の2／3以内
補助対象経費が20万円未満の場合は対象外
- ▶ 補助額：（1）IT活用 上限75万円
（2）IoT活用 上限150万円

IT・IoT導入補助金の実績と現状課題

直接成果指標－4

46件

令和7年度 交付決定件数

68.2%

デジタル技術未活用事業者の割合

デジタル化推進の課題が顕在化

申請期間の延長や周知強化により問い合わせは増加したものの、交付決定は46件（前年度減）となりました。

産業実態調査でも7割弱の事業者がデジタル技術を活用しておらず、IT導入意識の低さが判明しており、必要性の啓発が急務です。

3. 今後の方向性

各事業の「成果」と「課題」を分析し、次年度以降の具体的な改善策と方向性
をご提示します。

今後の方向性（改善策）



① キャッシュレスキャンペーン 制度設計・周知の抜本改善

商品券の販売方法や周知手法を分かりやすく改善。販売対象の拡大や販売期間の見直しを進め、より多くの区民が利用しやすい制度へ転換し、予算執行率と事業効果の最大化を図る。



② 小規模事業者経営改善補助金 伴走型サポートと柔軟な支援

一人親方が多く所属する土建組合等への出張説明や、分かりやすい記入例の提供により、経営改善計画の精度確保と事業者の来庁負担軽減を両立するとともに、交付事業者に対し経営改善状況をモニタリングすることで、事業効果の向上に繋げる。



③ IT・IoT導入補助金 生産性向上・業務効率化による 売上・利益拡大を支援

年度当初の周知に加え、SNSや広報誌等様々な媒体を利用し、年間を通じた周知を図ることで多くの事業者の補助金申請へつなげる。また、導入事例を紹介することで、IT・IoTの必要性を認識してもらえるよう取り組んでいく。

ご清聴ありがとうございました

No. 2持続可能な移動手段の確保

都市建設部 交通対策課 自転車係
交通計画係
新たな交通担当係

令和8年度（令和7年度事業分）

最終目標

多様な担い手により**便利で快適な交通網が整備**され、地域・事業者との協働で**区民の移動手段**を確保されている。

バス路線網、地域内交通、シェアサイクル



さらなる交通利便性の向上へ

GOAL

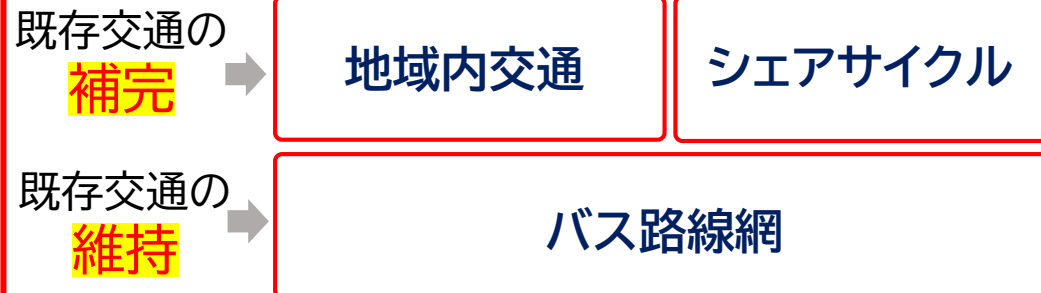
世論調査「通勤や通学などの交通の便が良い」と思う区民割合【最終成果】

最終成果(理想)

多様な担い手により**便利で快適な交通網**が整備され、地域・事業者との協働で区民の**移動手段を確保**されている。

世論調査「通勤や通学などの交通の便が良いと思う」区民割合が**70%以上**

持続可能な移動手段



令和6年度事業からの変更点について

令和7年度の足立区基本計画策定に合わせて、重点プロジェクト全体で見直しが行われた。そこでは、「まちの魅力・活力を創出すること」「課題を解決・克服する事業」などの観点により、より分かりやすくするため事業の選定を行った。

こうした背景を踏まえ、交通に関する事業については、次のように見直しを行なった。

	重点プロジェクト各事業		
令和6年	バス路線網	自転車走行環境整備 交通安全意識の普及 啓発	シェアサイクル
令和7年	バス路線網	地域内交通	シェアサイクル
	継続	新規	継続

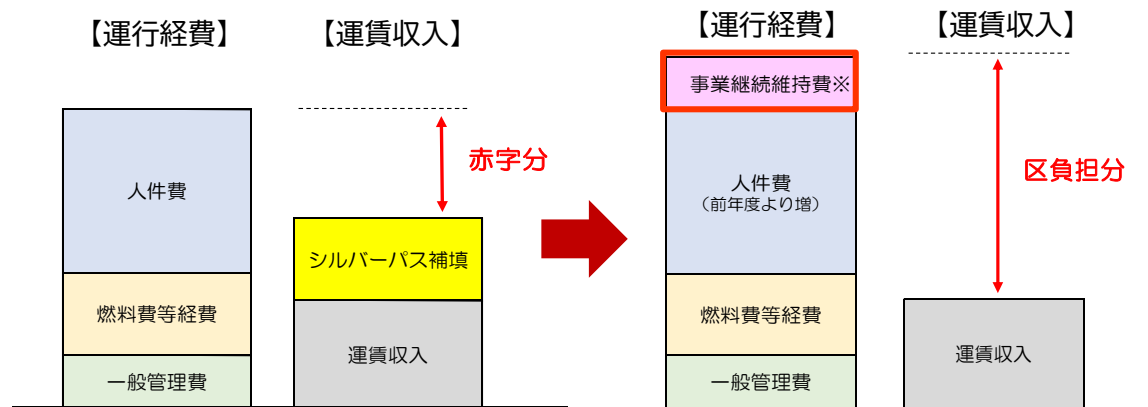
はるかぜ協働事業対象路線数【活動-1】

区とはるかぜ事業者の協働事業 **581,965千円**

日立自動車交通と新日本観光自動車が運行する7路線について、
人件費増額分を含めた**運行経費と運賃収入の差額を区が負担**。

R5まで(自主運行)

R6以降(協働事業)



※ 乗合事業の継続を目的として、運転士などの離職防止や雇用促進をこれまで以上に図るため、採用活動の拡大、福利厚生充実、職場環境の改善などを行なうための費用。

令和6年度
より

運行経費を負担する協働事業により**はるかぜ7路線を維持!**

協働事業対象路線



はるかぜ協働事業7路線の平日の往復運行本数【直接成果-1】

はるかぜ協働事業路線の運行ダイヤ最適化 16,500千円

R6年度末 299便/日 → R7年度末 **298便/日**

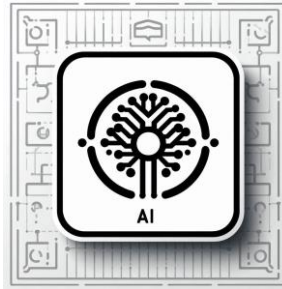
- 利用者の利便性向上やバス運転士の労務環境改善に向け、AIを活用した最適な運行ダイヤへの見直し等を実施

7路線全体で**運行本数を維持！**

遅延による苦情が多い
運転士の休憩も取りづらい

課題

混雑する便もあれば
利用者が少ない便もある



収集した運行情報等をもとに
最適化アルゴリズムを構築



利用者・バス事業者双方にとって
**最適な運行ダイヤを作成し
R8.2にダイヤ改正を実施**

ダイヤ改正(R8.2)前後の平日の往復運行本数

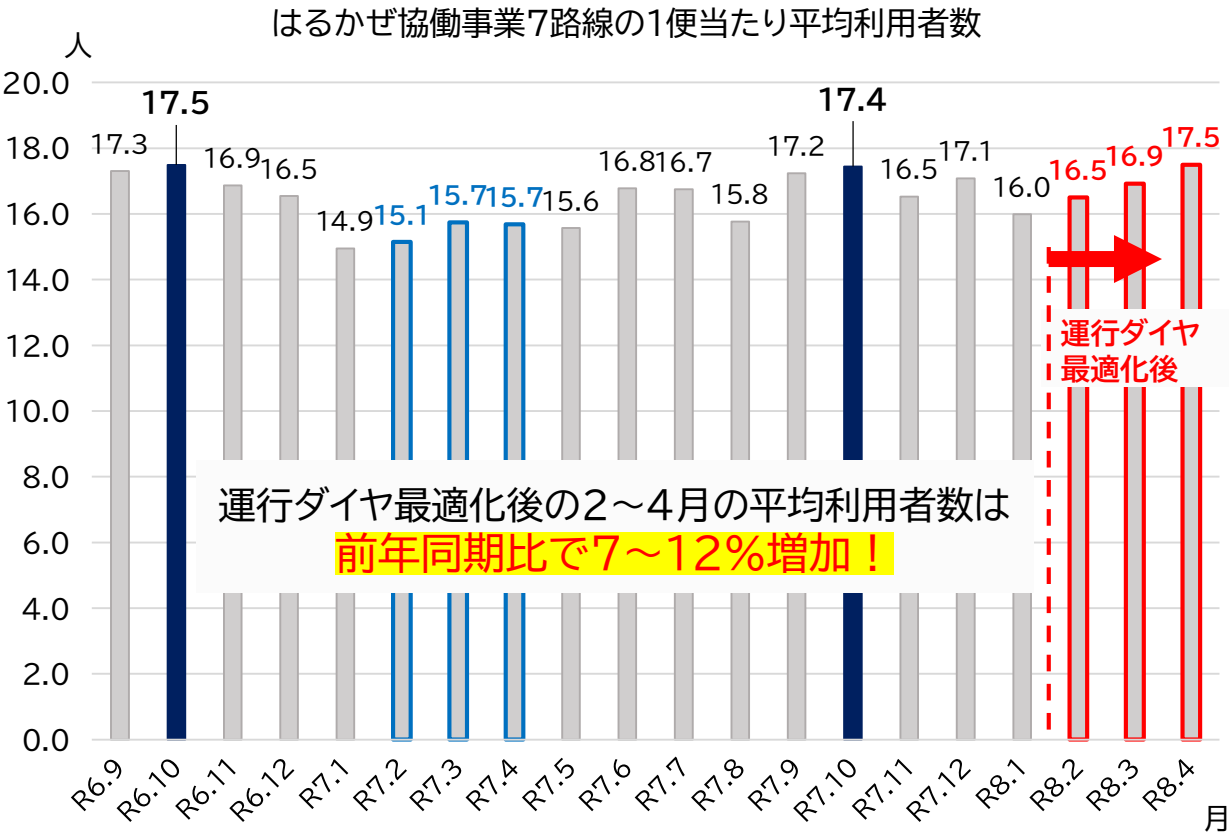
路線	改正前	改正後	増減
1号	66	72	6
5号	21	20	▲1
6号	88	84	▲4
8号	14	10	▲4
9号	58	60	2
11号	13	10	▲3
12号	39	42	3
合計	299	298	▲1



はるかぜ協働事業7路線の1便当たり平均利用者数【中間成果-1】

R6.10月 17.5人/便 → R7.10月 17.4人/便

基準とする10月の1便当たりの**平均利用者数は横ばい！**



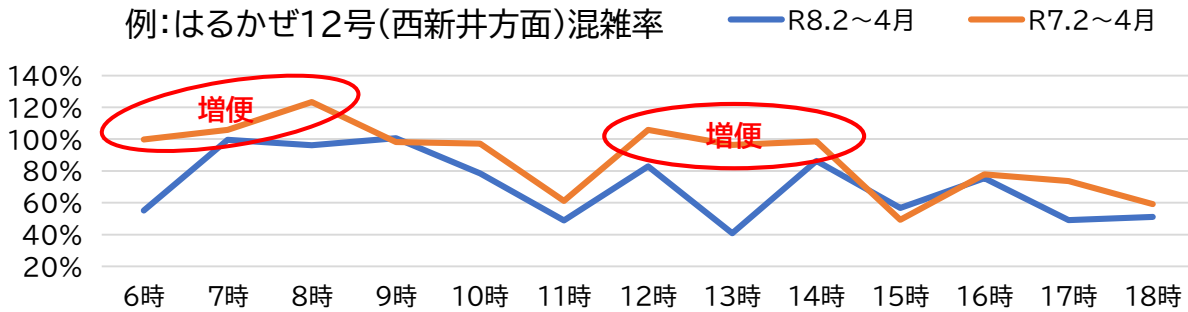
運行ダイヤ最適化による改善効果

①遅延改善:利用の少ない便を減便し、最も遅延が出ているはるかぜ6号(北千住方面)平日の通勤時間帯で運行間隔や所要時間を調整

時間帯	R7.2～4月				R8.2～4月		
	便数	1便平均	平均遅延		便数	1便平均	平均遅延
6時台	3	17.5	7:30	➡	4	19.6	7:37
7時台	3	17.5	16:57		3	19.4	8:42
8時台	3	18.3	10:44		3	18.8	4:51

道路混雑ピークの7時台では遅延が**約半減！**

②混雑緩和:利用実態の分析結果から、はるかぜ1, 9, 12号の混雑率が高い時間帯をピンポイントに増便

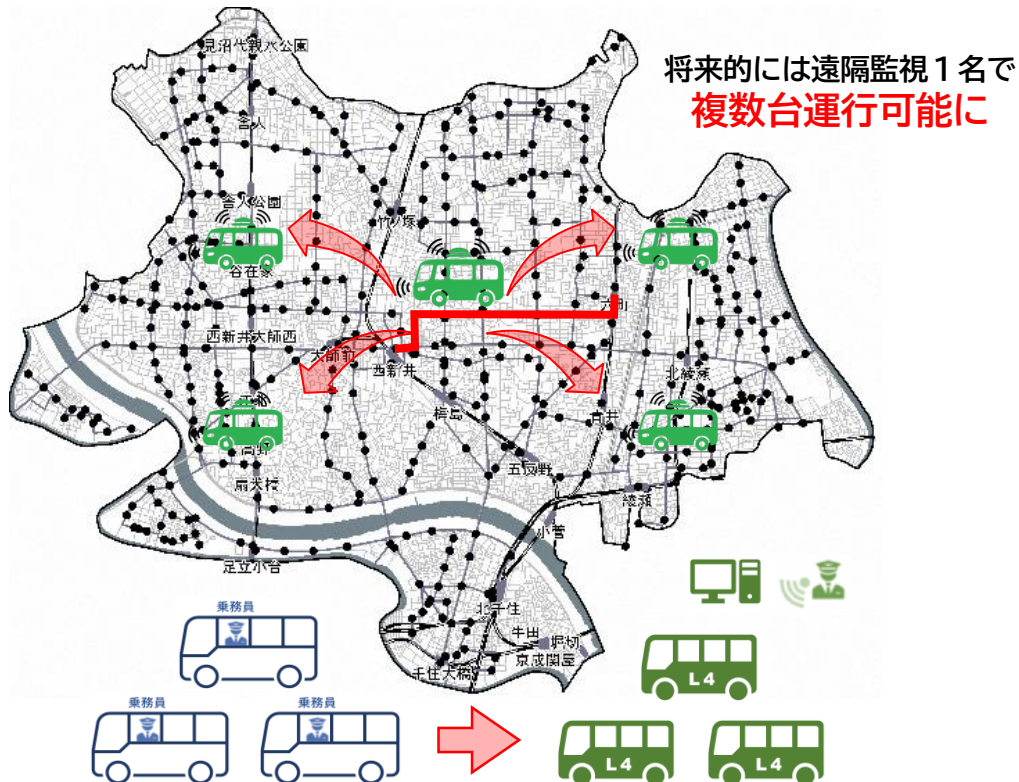


はるかぜ1, 9, 12号全体で混雑率が**約1割減！**

バス路線の維持に向けた取組み(令和8年度)

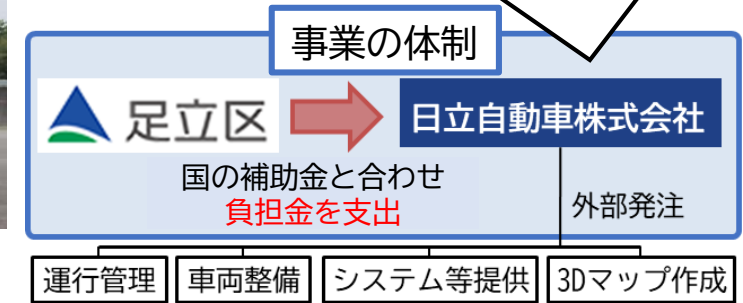
自動運転バス導入検討事業 172,853千円

- 深刻なバス運転士不足の解決策のひとつとして、六町駅・西新井駅東口間でのモデル実施を起点に、将来的には既存路線へ自動運転を展開し、持続可能な公共交通の確保を目指す



▲自動運転バスの想定車両

はるかぜ協働事業のバス事業者
他自治体で自動運転実証運行の実績あり



- ① 深刻な運転士不足の改善
将来的には遠隔監視1名で
複数台運行可能に

期待される
事業効果

- ② ヒューマンエラーの解消
による交通事故の低減
国のシミュレーションでは
死傷事故が約9割減

令和8年度実施スケジュール

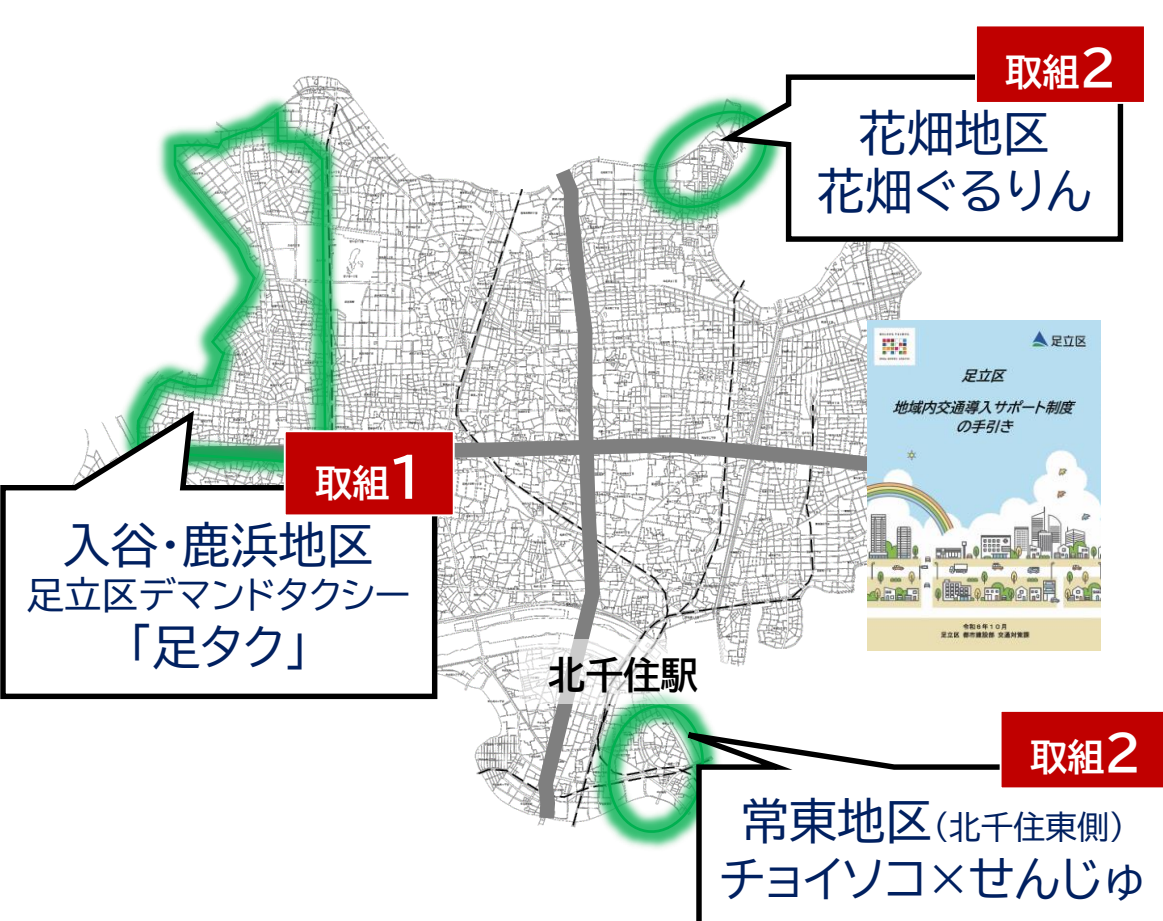
夏頃～	補助金申請、運行の認可手続き
秋頃～	運行ルート3Dマップ作成、ドライバー研修、試験走行
冬頃～	実験開始(乗客あり)

地域内 交通

事業周知等の説明会及び発行物配布回数【活動-2】

取組1 区内初 タクシーを活用した実証実験 8,000千円

取組2 区内初 地域住民と連携した交通手段の実証実験 17,000千円



計9回の発行

わかりやすいチラシで利用促進
庁内「あだちポスターチャレンジ」
手作りチラシ賞受賞



計15回の説明会

丁寧な周知活動



地域内 交通

実証実験開始延べ地区数【直接成果-2】

日常移動を支えるため限られた地域内を運行し、既存公共交通を補完しながら、共存していける交通手段を検証中

実証実験開始延べ地区数

年度	R6	R7	R8予定
延べ地区数	1	3	4

①足タク

②チョイソコ×せんじゅ
③花畑ぐるりん

④扇周辺地区(予定)

本格運行移行の目安

$$\frac{\text{運行経費 (システム料等を除く)} - \text{収入 (運賃及び協賛金等)}}{\text{利用件数}} = \text{概ね } 1,500\text{円}$$

地域内交通は限られた区域を運行するため、これまでの収支率(採算性)ではなく、利用1件当たりの区負担額(行政負担の妥当性)を指標化



令和6年6月～
実験START



令和7年10月～
実験START



扇周辺地区

令和8年冬頃～
実験START予定

北千住駅

令和7年8月～
実験START



本格運行移行延べ地区数【中間成果-2】

本格運行移行延べ地区数

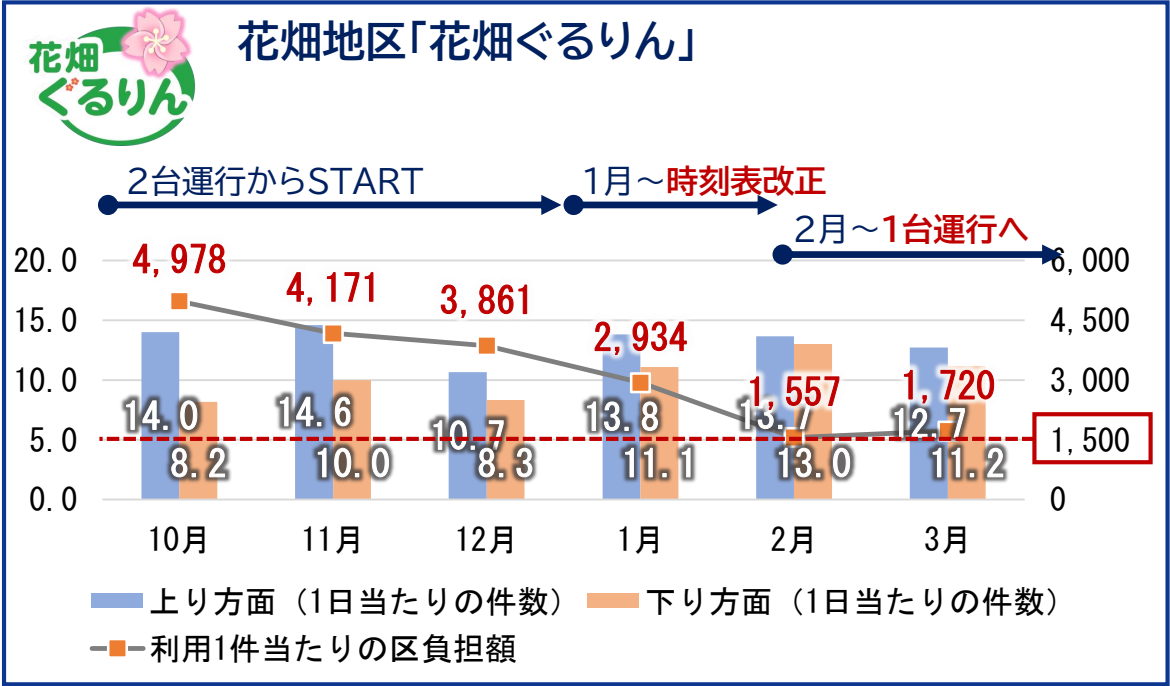
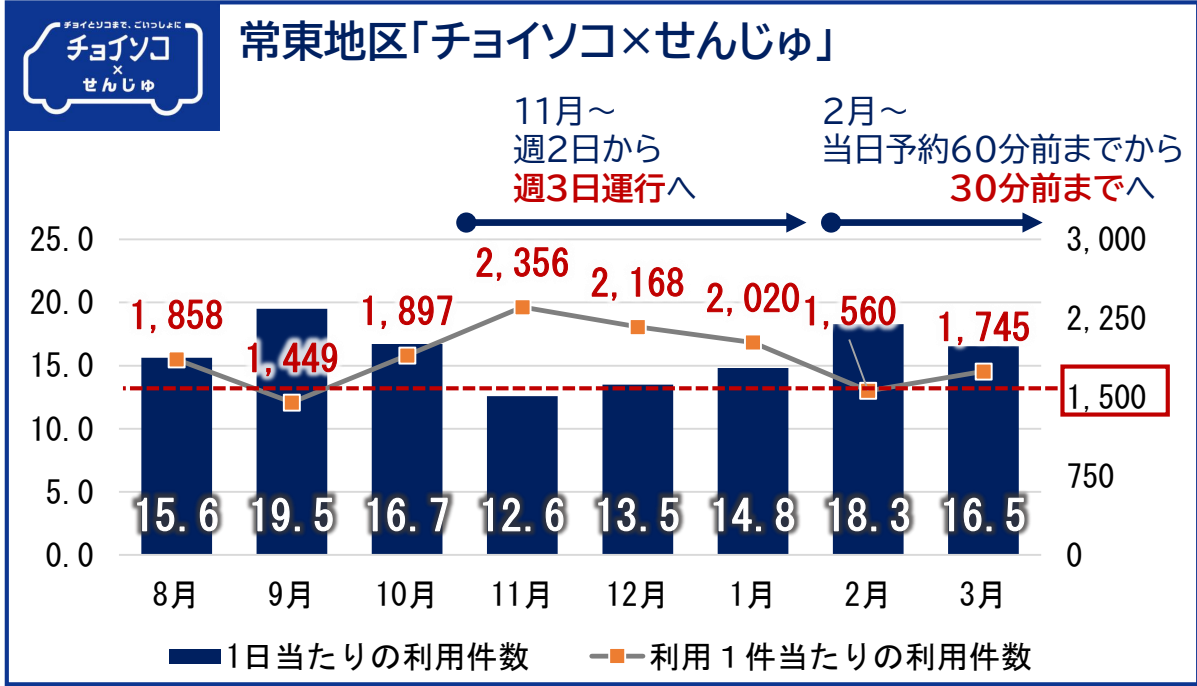
年度	R6	R7	R8予定
延べ地区数	1	1	3

本格運行



入谷・鹿浜地区 足立区デマンドタクシー「足タク」
令和7年4月より**本格運行**へ移行
利用1件当たりの区負担額 約**1,470円**/件(R7年度実績)

継続運行中



シェアサイクルのポートの増設【活動-4】

1 シェアサイクルポート数

R8.3 ポート数 300(目標 250 達成率120%)

シェアサイクル事業の目的

足立区内全域の移動における利便性の向上

シェアサイクルのポート数を増やす



ポート数 R8.3 300

区内の公共交通の機能を補完



特に、区内の東西移動における補完

目的

区内全域の利便性が向上



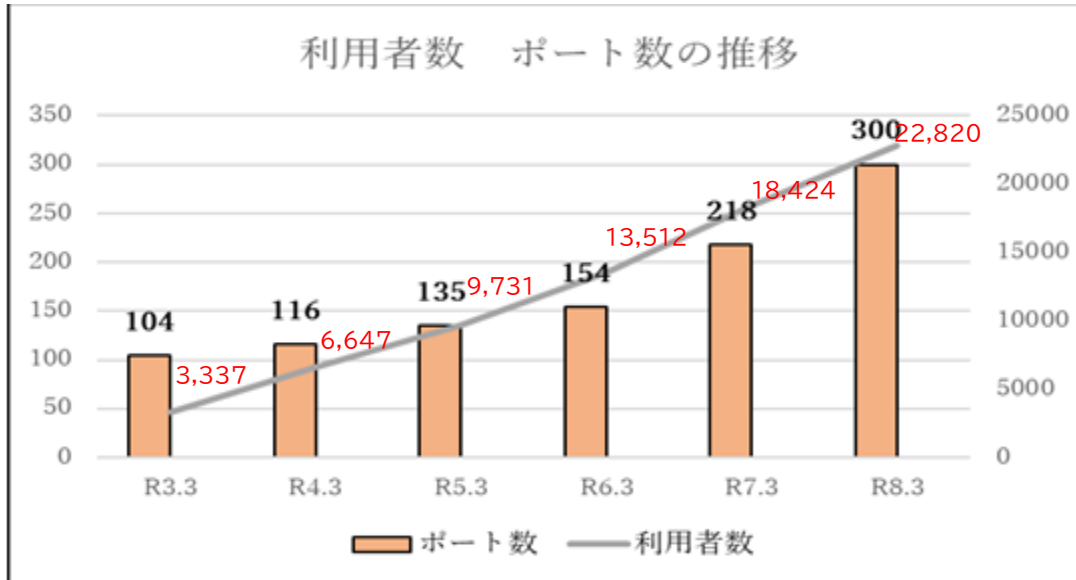
シェアサイクルの「サイクルポート」

シェアサイクルのポートの増設【直接成果-3】

2 シェアサイクルの利用者数

R7 利用実績 **92,466人**(目標 **96,049人** 達成率**96%**)

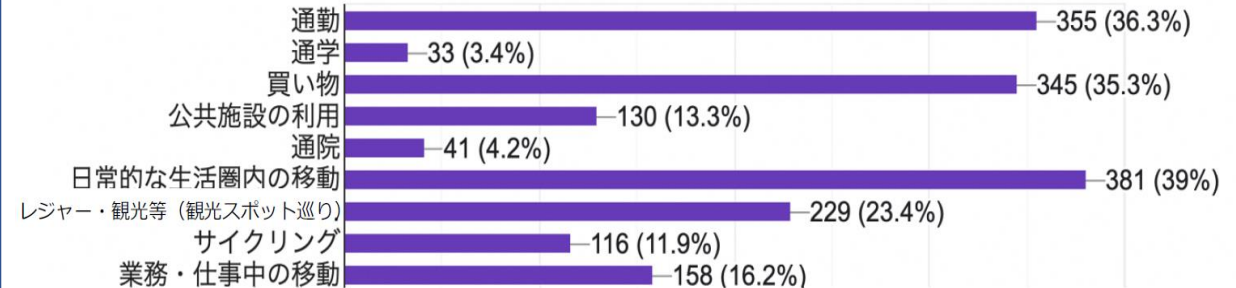
シェアサイクルのポート数が増えることで、利用者の増加、自動車や自己所有の自転車からの転換が図られ、**環境負荷の軽減**や**自転車の総数抑制**につながるとともに、**環境目的**など**地域活性化**に寄与。



シェアサイクルの主な利用目的

生活圏内の移動、通勤、買い物に多く利用されており、日常的な交通手段として多く利用されていることが判明した。

978 件の回答



その他回答例

- ・ 終電・終バス後の移動
- ・ 公共交通機関に乗れなかったとき
- ・ 知人・友人宅への移動時
- ・ 帰省・自宅への移動時

「日常的な生活圏内の移動」が約4割。
また「通勤」「買い物」の利用も全体の3割を超えた。

シェアサイクルのポートの増設【中間成果-3】

3 シェアサイクルの利用者満足度

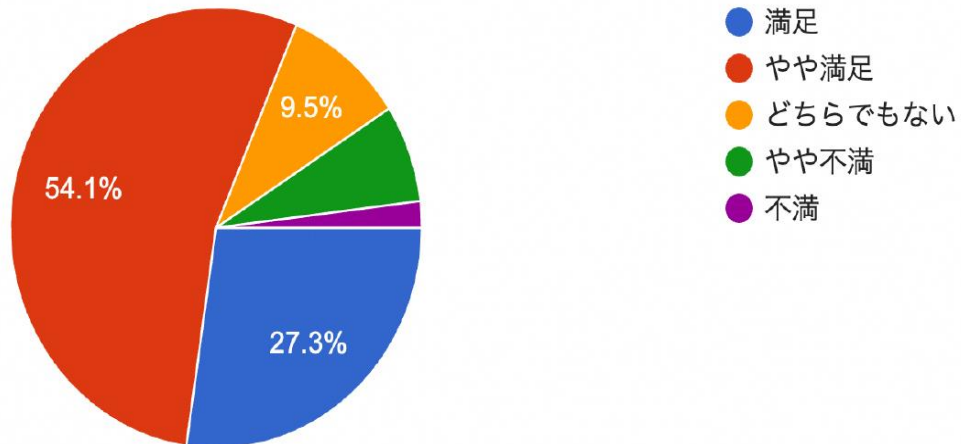
R6 満足度 81%(目標 75 達成率108%)

利用者の声(R6.3月～R6.4月にかけて聴取)

シェアサイクル全体への評価

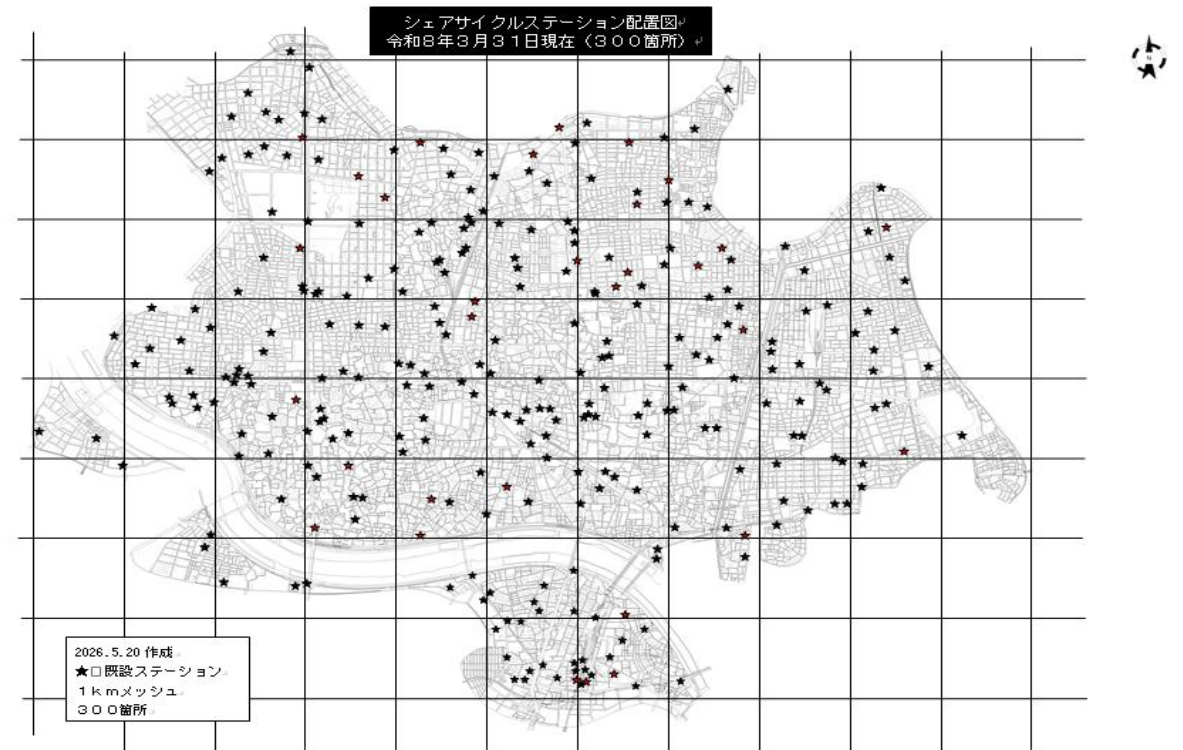
満足、やや満足で80%以上となっており利用者の満足度が高い。

不満、やや不満については、ポートが満車で返却できなかったという声や、ポート数の更なる増加を望む声が多かった。



シェアサイクル事業の今後の展開

ポート設置数は目標を達成したが、地域によって偏りがあるため、1Km²で区切った場合にポートの密度の低い地区に重点的に増やしていく。



世論調査「通勤や通学などの交通の便が良い」と思う区民割合【最終成果】

今後の方向性

バス路線

- 8年度秋頃にははるかぜ協働事業の**収支率や利用者数等から事業を評価**
- 持続可能な交通手段の確保に向け、9年度もはるかぜ協働事業、自動運転バス実証実験の継続を目指す。

地域内交通

- 地域協議会が継続的に活動ができるよう、意見交流の機会提供やスキルアップを支援する。
- 財政支援を含めた制度の見直しを進め、**足立区版の地域内交通制度を確立**していく。

シェアサイクル

- シェアサイクルポートを増やし地域偏在の解消に取り組むことで、**東西交通手段の補完**や、交通不便感の高い地域の利便性向上を目指していく。

持続可能な移動手段の確保の実現へ

エリアデザインの推進

～ 地域の特性を活かしたまちづくり ～



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

- 01 エリアデザインとは**
- 02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)**
- 03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)**
- 04 課題**
- 05 今後の事業予定・方向性**

01 エリアデザインとは

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

04 課題

05 今後の事業予定・方向性



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

01 エリアデザインとは エリアデザインのまちづくり

魅力的なまちの将来像を描き、民間活力の誘導や区有地等の活用を効果的に
行うことで、区のイメージアップを図る**足立区独自**のまちづくり手法です。

STEP 01

事業期間：1～2年

エリアデザイン計画

まちの特徴・魅力や
求めるべき将来像を描く

- ・ 基礎調査、アンケート
- ・ ヒアリング
- ・ 住民説明会 etc.

STEP 02

事業期間：1～5年

実現手法の検討

民間活力の誘導
区有地等の効果的な活用

- ・ 事業者選定
- ・ 整備内容協議
- ・ 住民説明会 etc.

STEP 03

事業期間：1～3年

計画事業整備

新たな魅力を創造する

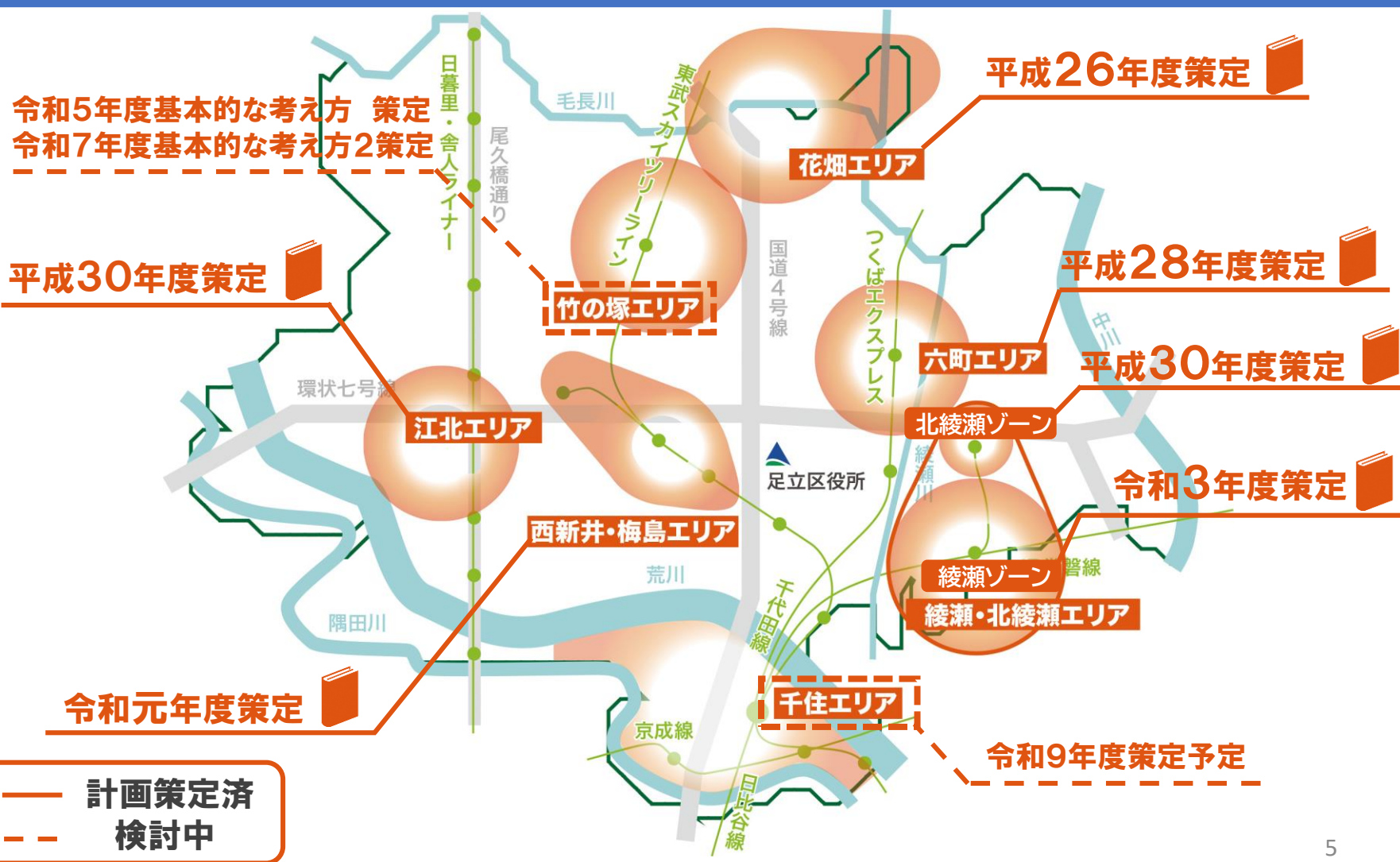
- ・ 工事周知・説明
- ・ 工事着手
- ・ 工事完成 etc.



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン=未来

01 エリアデザインとは 対象は7つのエリア



Index 目次

01 エリアデザインとは

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

04 課題

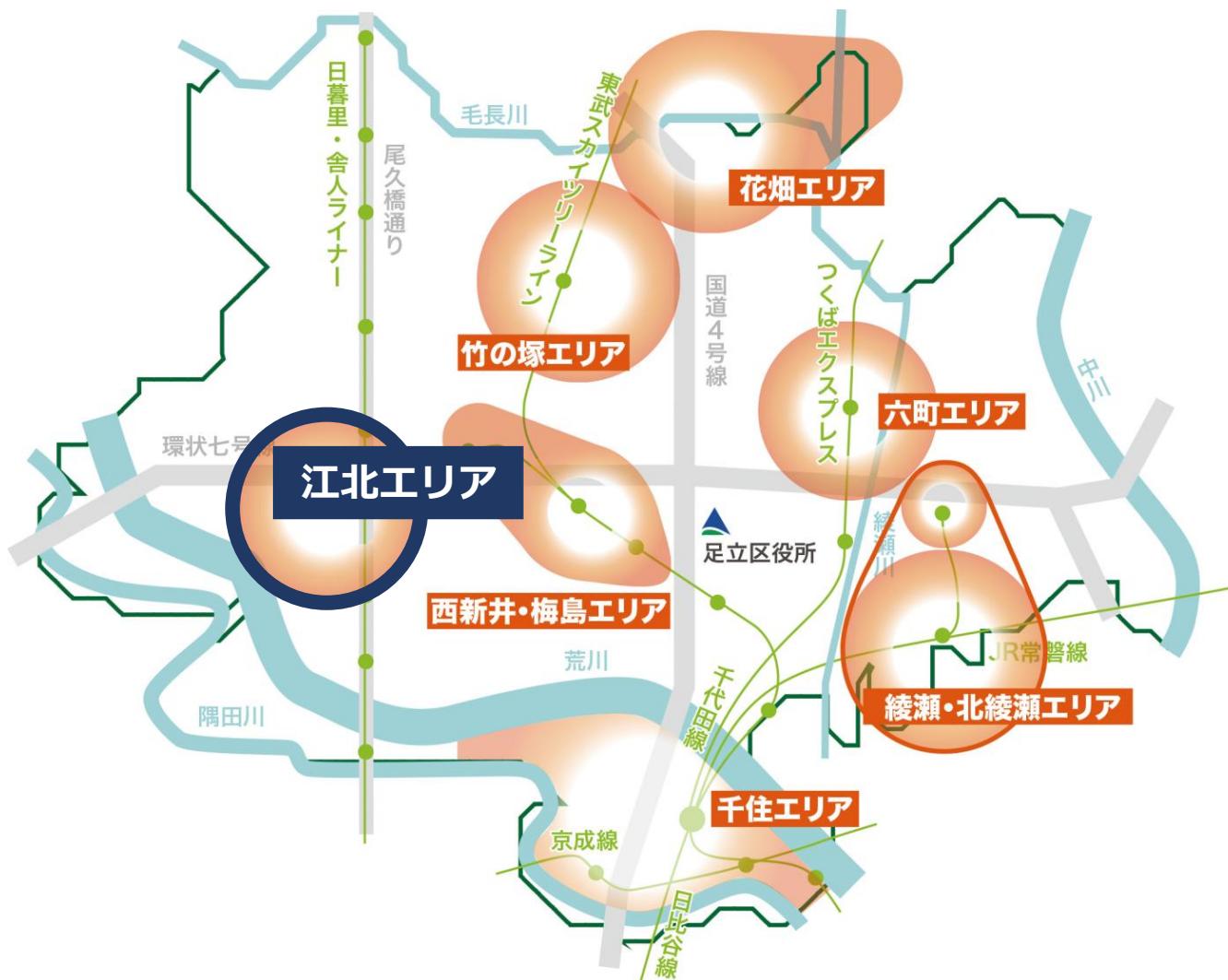
05 今後の事業予定・方向性



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例) 江北エリアデザインの取り組み





Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン=未来

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例) 江北エリアデザイン計画(概要版)

江北エリアの整備方針(案)



江北エリアデザイン計画(概要版)

江北のまちづくり
～ここからでも自ずと健康に～



完成イメージ図

まち×デザイン=未来

エリアデザインとは

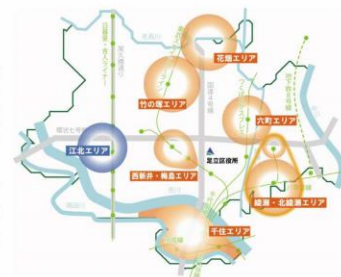
足立区は現在区内7箇所で進めている「エリアデザイン」とは、そのエリアが持つ魅力や目指すべき将来像を内外に発信するとともに、民間による区有地などの活用を図ることで、地域の活性化や区のイメージアップにつなげようという取り組みです。

江北エリアの未来

江北エリアには、区民の悲願であった大学病院の誘致が実現します。この機会を捉えて、エリア内に創出される複数の大規模用地を効果的に活用し、コンセプトにあった施設の整備を進めるとともに、それらを活かした区施策も併せて展開するなど、戦略的にまちづくりを進めていきます。

「江北エリアデザイン計画」の策定にあたっては、区の基本計画や都市計画マスタープラン等を土台としつつ、エリアの特徴を示す統計データを収集するとともに、地域にお住まいの方々に対するアンケート調査を実施しました。両者の内容を比較・分析することで、現在の江北エリアが持つ「強み」と「弱み(課題)」を把握し、まちの将来像=エリアデザインを描きました。

足立区が推進する 7つのエリアデザイン



Area Design
Promotion Headquarters

足立区エリアデザイン推進本部

事務局：足立区政策経営部

エリアデザイン推進室エリアデザイン計画担当課

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1南館9階

TEL 03-3880-5111(代表) 内線1220 03-3880-5812(直通)

FAX 03-3880-5610

URL <http://www.city.adachi.tokyo.jp/>



Area Design
Promotion Headquarters

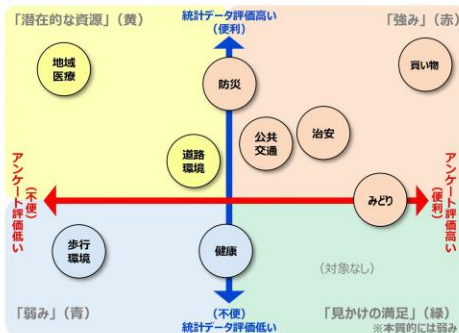
まち×デザイン=未来

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例) 江北エリアデザイン計画(概要版)

東京女子医科大学東医療センターを核としたまちづくり

「健康」をテーマに4つの視点で「住んでいるだけで自ずとところもからだも健康になるまちづくり」を推進します。

江北エリアの強み・弱み



まちづくりに関連する各項目について、統計データの収集や住民へのアンケート調査を実施し、「強み」(黄)「弱み」(青)「見かけの満足」(緑)「不安」(不安)の4つに分類しました。

江北エリアが目指す「健康」の3つの要素



「健康」をテーマにまちづくりを進める4つの視点

- 1 病 気 予 防**
 - ・好ましい食習慣の定着
 - ・医療、介護、保健施設の連携
- 2 体 力 づ くり**
 - ・健康維持、体力増進
 - ・スポーツをする機会の充実
- 3 安 心**
 - ・治安の向上
 - ・防災力の向上
 - ・地域ネットワークの促進
- 4 に ぎ わ い**
 - ・地域の活性化・利便性の向上
 - ・大学病院周辺の基盤整備

1 病 気 予 防

住んでいるだけで 自ずと健康になるまちづくり

病気を重症化させない予防対策や、趣味や地域活動に参加しやすい環境づくりにより、健康寿命の延伸を図ります。こころもからだも健康になるまちづくりを進めていきます。

- Action 1 「野菜を食べよう、野菜から食べよう」の習慣化**
- ・野菜や朝食の摂取など、食生活を改善する事業を強力に展開します。
- Action 2 支えあいや活動の場づくり**
- ・サークル活動やボランティア活動など、趣味や地域活動の場を充実させます。
 - ・子育て世代や高齢者の支えあいの場づくりで不安のない毎日を過ごせます。
- Action 3 医療・介護の連携施設の整備**
- ・区内の医療・介護事業者の連携を促進する拠点を整備します。
- Action 4 母子保健事業の強化・充実**
- ・江北保健センターを更新し、東京女子医科大学の周産期医療と育児相談を連携し、出産・育児環境強化を検討します。

2 体 力 づ くり

身近なところで 気軽に運動できるまちづくり

歩行ネットワークを整備し、若年から高齢者まで、つい歩きたくなるような環境を整備します。テニスコートや野球場などのスポーツ施設の充実により、身近に体を動かせる環境をさらに充実させます。

- Action 1 つい歩きたくなる環境の整備**
- ・現在の散歩コースである神領堀や江北北部緑道などを新たな緑でつなぎ、ネットワークを広げます。今よりも、楽しく、長く、歩きたくなる環境を提供します。
- Action 2 上沼田東公園改修と高野小学校跡地によるスポーツゾーンの整備**
- ・上沼田東公園のテニスコートと野球場を使いやすく再整備します。
 - ・高野小学校跡地にはサッカーなどさまざまなスポーツが楽しめる多目的広場を整備します。
- Action 3 防れたくなる公園の整備**
- ・年少層・ファミリー層、高齢者などの利用者ニーズに合わせた公園を整備します。
 - ・人が集い、交流できる機能やにぎわい施設を整備します。

3 安 心

安全・安心なまちづくり

治安が良いのが江北エリアの強み。この強みをさらに磨くため、特に日暮里・舎人ライナー東側の刑法犯認知件数を減らし、エリア全体の体感治安向上を目指します。

創出用地、統合小学校などの新施設には、災害時対応機能を整備するとともに、既存の江北給水所や公園を活用することで、いざというときの不安を緩和できるようまちづくりを進めます。

- Action 1 防犯力強化による安心の提供**
- ・東ブロックを中心に防犯カメラなど防犯機能の充実、見回り強化、夜間の道路の明るさ確保などにより、犯罪抑止力を高めます。
- Action 2 災害時避難所機能向上**
- ・統合小学校の新築や、豊富な応急給水量をもつ江北給水所との連携により、避難所機能を向上させます。
- Action 3 防災機能を持った公園へ整備**
- ・日ごろから防災設備に触れる機会を設けることで、住民の災害対応力の向上を図ります。
- Action 4 東京女子医科大学東医療センター**
- ・救急医療の確保、災害時医療の拠点、周産期機能の充実などにより安心が広がります。
 - ・病院周辺では、道路幅により、交通の安全を高めるとともに無電柱化も検討していきます。

4 にぎわい

にぎわいづくり

日暮里・舎人ライナー沿線に日常生活における買い物や飲食などに通じた商業施設等を誘導して、まちのにぎわいにつなげます。

大学病院の移転に伴い、周辺の交通環境整備やバス交通の誘導を着実に進めるとともに、中・長期的には、主要な生活道路の環境整備を進めます。

- Action 1 用途地域の見直しを回り地域の活性化・利便性を向上**
- ・日暮里・舎人ライナー沿線のにぎわいとなる商業施設等を誘導するため、必要用途地域の見直しを図ります。
- Action 2 大学病院移転に伴うバス交通の誘導**
- ・交通需要増に対し、バス回転広場を整備してバス交通の誘導を図ることで、利便性を高めます。
- Action 3 公園との連携でにぎわい創出**
- ・駅近くの立地を活かし、隣接公園との相乗効果を期待できる機能を検討します。
- Action 4 補助138号線の早期開通**
- ・補助138号線を早期整備し、エリア内東西の移動を容易にします。

※イラストはイメージです。

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

民間活力の誘導と区有地等の効果的な活用①

令和4年1月～



東京女子医科大学附属足立医療センター

令和4年4月～



江北小学校

民間による
用地の活用

- ・ 高度医療の提供
- ・ 災害対応機能の向上

- ・ 充実した教育環境
- ・ 避難所機能の向上



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

民間活力の誘導と区有地等の効果的な活用②

令和7年4月～



すこやかプラザ あだち

令和8年4月～



高野スポーツパーク

- ・ 医療、介護、健康の拠点
- ・ 災害対応機能の向上

- ・ 健康とスポーツの拠点
- ・ 区内初!! 全面人工芝
- ・ ZEB Ready (※) 認証取得

※ エネルギー消費量を50%以上削減した建物



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

民間活力の誘導と区有地等の効果的な活用③

令和6年9月～リニューアルオープン



上沼田東公園

令和9年12月(予定) ※イメージパース(夕景)



上沼田東公園東側創出用地

- ・ 本格的スポーツ支援
- ・ 地域交流機能

民間による
区有地の活用

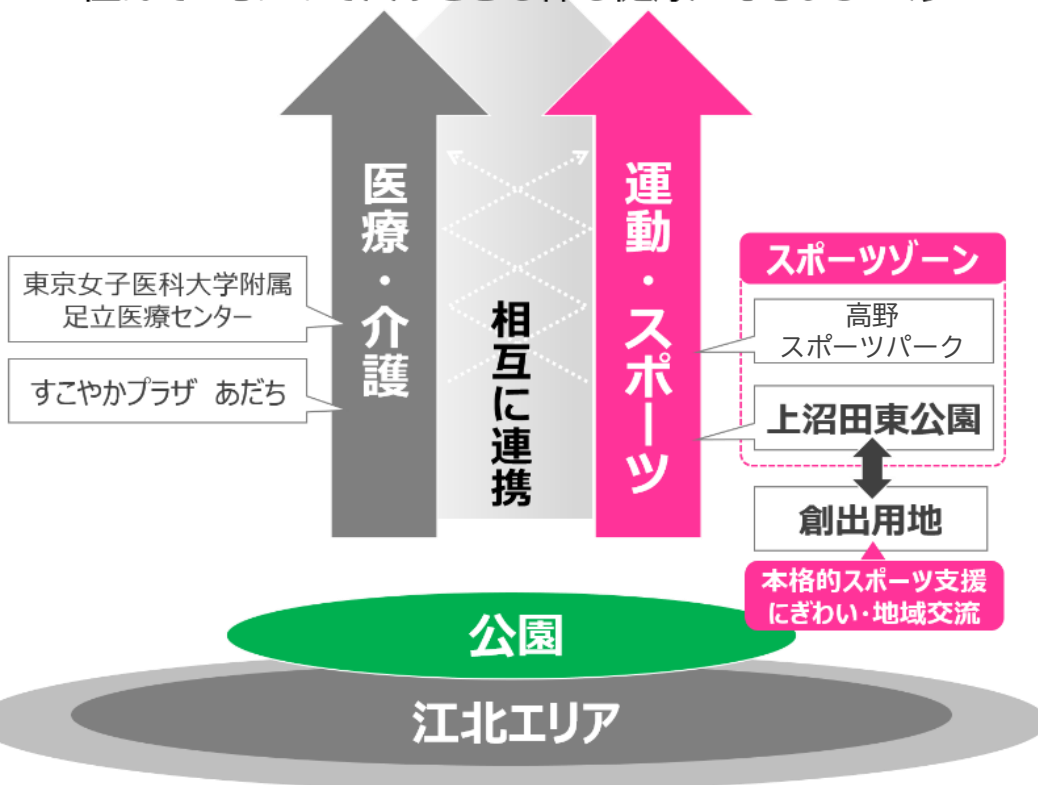
- ・ 賑わいの創出
- ・ 健康・スポーツとの連携

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例) 江北エリアデザインのまちづくり

健康

【将来像】

住んでいるだけで自ずと心も体も健康になるまちづくり



江北エリアデザイン 計画策定

長い時間をかけて
区のイメージアップ・
地域の活性化を図る

Index 目次

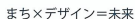
01 エリアデザインとは

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

04 課題

05 今後の事業予定・方向性



【活動1】【直接成果1】

8つ 策定

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

計画策定地域内の拠点開発整備【中間成果1】

花畑エリア



花畑団地
再生事業を
契機として...

平成31年4月
工事着手

令和3年4月
文教大学

東京あだちキャンパス開設

若年世代の流入による
地域の活性化



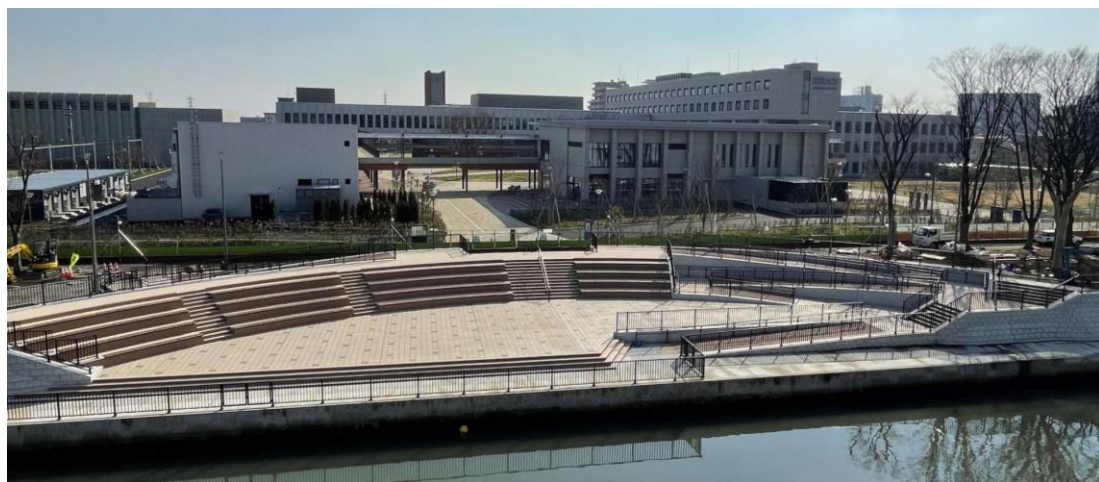
Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

拠点開発に伴う道路・公園整備【中間成果2】

花畑エリア



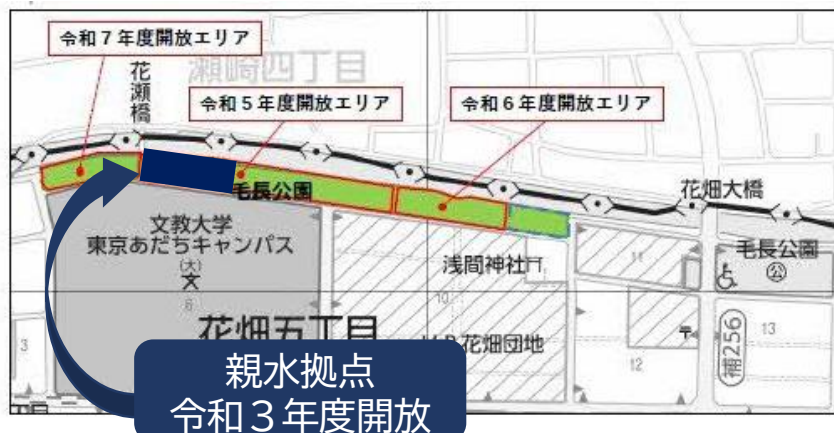
文教大学
東京あだちキャンパス
開設を契機として...

令和3年11月
工事着手

令和4年3月

毛長公園親水拠点等整備

散策路整備による
新たな魅力の創出





Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

拠点開発に伴う駅前広場整備【中間成果3】

綾瀬・北綾瀬エリア (北綾瀬ゾーン)



千代田線直通運転・
駅前大型商業施設建設を
契機として...

令和5年6月
工事着手

令和7年6月
駅前交通広場整備

始発駅としての
**交通結節機能
強化**



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

旧こども家庭支援センター等跡地活用

【活動3・4】
【直接成果2】

綾瀬・北綾瀬エリア (綾瀬ゾーン)



綾瀬エリアデザイン
推進

跡地に予定している憩いの場について
意見交換会を実施



地域の声を反映し、
公募を実施



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

六町駅前区有地の開発【活動3・4】【直接成果2】

六町エリア



六町エリアデザイン
駅前区有地の活用
再検討

建設費高騰により
事業者撤退

地元説明会を開催
複合商業施設の誘致
に向けて再スタート



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

上沼田東公園

東側創出用地の活用【活動3・4】【直接成果2】

江北エリア



江北エリアデザイン
推進

民間施設誘致
地元協議会に説明

地元の理解を得ながら
賑わいを創出



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

梅田八丁目複合施設の開発【活動3・4】【直接成果2】

西新井・梅島エリア



西新井・梅島
エリアデザイン
推進

ワークショップ開催
多様な世代の意見を集める

地域の魅力向上



南北線沿いから施設を見る

※外観パースはイメージです。今後変更になる可能性があります



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

竹ノ塚駅東口交通広場整備【活動3・4】【直接成果2】

竹の塚エリア



竹の塚エリアデザイン
推進

駅前にてイベント開催
まちの声を集める

駅前空間を核とした
まちなか再生



現時点における検討案のため、変更の可能性があります。

Index 目次

01 エリアデザインとは

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

04 課題

05 今後の事業予定・方向性

04 課題

建設事業環境の悪化による建設中止・延伸

建物種類2 集合住宅（RC造）
No. 2 Condominium

出展：一般財団法人 建設物価調査会

平成27（2015）年＝100



建築費の高騰
人件費の上昇

工事費高騰により
事業収支が見込めない

公共工事設計労務単価

～全国全職種平均値の推移～



建設事業が
中止・延伸

※ 金額は加重平均にて算出。平成31年までは平成25年度標本数をもとにラスパイレス式で算出し、令和2年度以降は令和2年度の標本数をもとにラスパイレス式で算出した。

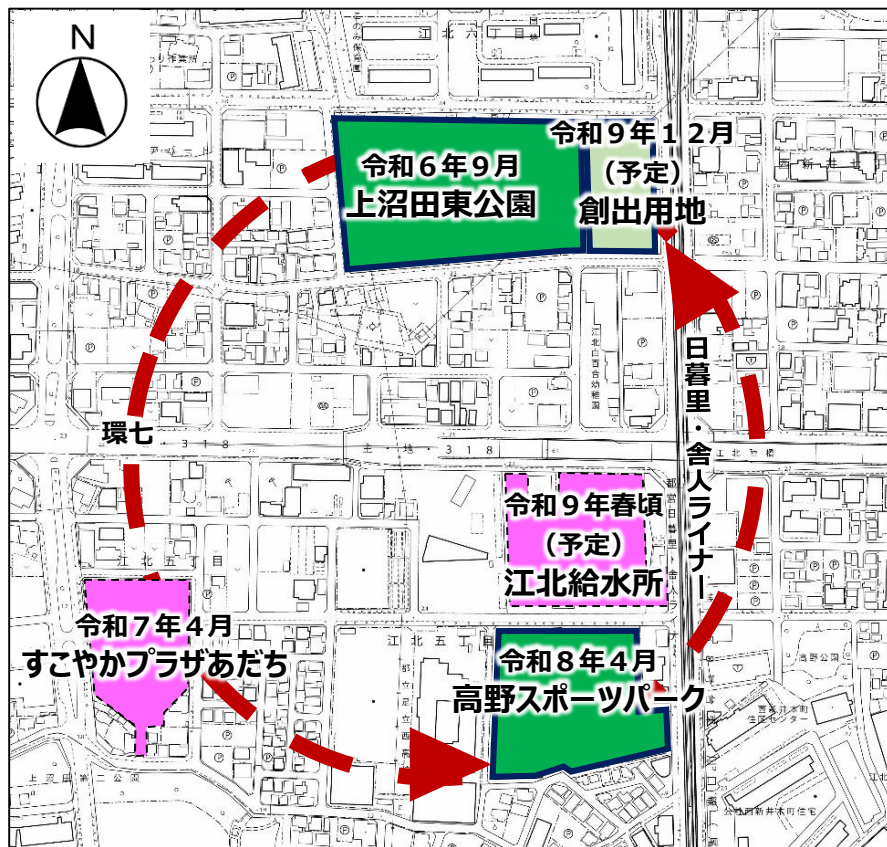


Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン＝未来

04 課題

エリア内に整備した施設の連携



各施設の整備が
着々と完了



都・区・事業者等と
さらなる
連携が必要

Index 目次

01 エリアデザインとは

02 これまでの取り組みと成果(江北エリアの事例)

03 指標の達成状況(これまで・令和7年度の主な動き)

04 課題

05 今後の事業予定・方向性

05 今後の事業予定・方向性【千住エリア】 東京の玄関口にふさわしい計画の策定

次の100年に向けて！千住の魅力を最大化



千住エリアデザイン計画検討

足立区 エリアデザイン



Area Design
Promotion Headquarters

まち×デザイン=未来

足立区政策経営部
エリアデザイン推進室
エリアデザイン計画担当課